

平成13年10月16日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長  
西田良一

第10回ペスタロッチー教育賞表彰式について

このことについて、別紙のとおり送信いたしますので、取材をお願いします。  
なお、今回の授賞者は下記の方です。

記

受賞者 俳優 佐野浅夫

【お問い合わせ先】

広島大学大学院教育学研究科教授 坂越

TEL:(0824)24-6731

広島大学教育学部庶務係

TEL:(0824)24-6707

[発信枚数;A4版 5枚(本票含む)]

- [表彰式・記念講演会プログラム](#)
- [教育学部からの案内](#)
- [ペスタロッチー教育賞について](#)

## ペスタロッチー教育賞受賞者紹介

俳優 佐野浅夫氏  
(さの あさお)

佐野浅夫氏は、1925(大正14)年横浜市生まれ。1943年、日本大学芸術学部在学中に劇団苦楽座に入団、以後、劇団文芸劇場、新協劇団を経て、1950年劇団民芸に参加。新劇俳優として「セールスマンの死」「アンネの日記」などに出演し高い評価を得る一方、映画「真空地帯」やテレビドラマでも幅広く活躍し、とりわけ国民的テレビ時代劇「水戸黄門」の3代目黄門として人気を博した。

今回のペスタロッチー教育賞の受賞は、俳優としての佐野氏のもう一つの顔、子どもたちへの「お話の語り手」としての活動に対するものである。佐野氏は、1954(昭和29)年にスタートしたNHKラジオ番組「お話でてこい」の童話の語り手として、今日まで47年間毎週月曜日と火曜日に出演し、放送回数は4000回以上、語ったお話の数も3000話に及んでいる。この番組における氏の活動は、テレビや子どもの絵本、玩具もなかった時代から、多様なメディアにあふれる現代まで、多くの子どもたちを引きつけ、音声のみによって子どもの心にワクワクやドキドキ、安らぎや夢を与え続けてきたものとして高く評価される。

また、氏は創作童話の執筆にも取り組み、「お話でてこいのおじさんのお話」(1990年)は、ト書き入り創作童話として子どもたちへの読み聞かせを積極的にすすめる保育現場や保護者サークルに話題をよんだ。さらに、「お話の心を語る」や「お話で育つ心」をテーマとして講演活動を続けるとともに、俳優の仕事で訪れた先など各地で、子どもを対象とした語り、高齢者施設での慰問の語りを現在でも行っている。このような活動に対して、すでに久留島武彦文化賞(1975年)、モービル児童文化賞(1978年)などが贈られている。

今日の子どもの取りまく世界では、あふれるほどのモノと情報があり、お話も3Dメディアで提供されている。その一方で、幼児期からの心の教育が切実に求められ、その一環として母親たちの読み聞かせ、お話会のサークル活動が全国で地道な活動を展開している。また、小学校の教室でも教師の読み聞かせる物語に静かに耳を傾ける児童の姿がある。このような状況の中で、47年間一貫して音声メディアによって多くの子どもたちに語りかけ、その情感を豊かにし、想像力を広げた氏の活動は高く評価されるべきものである。また氏の活動を顕彰することは、お話や語りの活動を通して子どもの心を育もうとしている多くの保護者や保育者、教師を励ますものとなるはずである。

教育賞の名に冠したペスタロッチーも、著作「リーンハルトとゲルトルート」の中で子どもにお話を聞かせる居間の母の姿を描き、シュタンツでは自ら孤児たちに語りかけることを常とした。「母の声は子どもに消しがたい印象を与え、聴覚が人間を真に人間にする基盤となる」のである。

佐野浅夫氏の長年にわたる多大な功績に対して、第10回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、ここに高く顕彰したい。

## 第10回ペスタロッチェー教育賞表彰式

日 時 平成13年11月5日(月)13:00~14:20  
場 所 広島大学教育学部大講義室(K201号教室)  
〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号  
TEL (0824)24-6707 FAX (0824)22-7171

プログラム

- 1 開会の辞
- 2 主催者挨拶  
ペスタロッチェー教育賞実行委員会委員長  
広島大学長 牟田 泰三  
広島大学大学院教育学研究科長 利 島 保
- 3 祝 辞  
(財)広島地域社会研究センター理事長 篠原 康次郎
- 4 ペスタロッチェー教育賞贈呈  
受賞者 俳優 佐野 浅夫
- 5 記念品贈呈  
中国新聞社
- 6 受賞の辞並びに記念講演  
受賞者 俳優 佐野 浅夫
- 7 閉会の辞

## 第10回ペスタロッチー教育賞表彰式・記念講演会

受賞者 俳優 佐野 浅夫  
日時 平成13年11月5日(月)13:00～  
13:00～13:30 表彰式  
13:30～14:20 受賞の辞並びに記念講演  
俳優 佐野 浅夫  
場所 広島大学教育学部大講義室(K201号教室)  
〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号  
主催 広島大学大学院教育学研究科  
ペスタロッチー教育賞実行委員会  
後援 (財)広島地域社会研究センター  
中国新聞社

(問合せ先)

広島大学大学院教育学研究科 ダイヤルイン(0824)24-6731(坂越)  
広島大学教育学部事務室 ダイヤルイン(0824)24-6707(庶務係)

## ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチー

## JOHANN HEINRICH PESTALOZZI

スイスの教育家・教育思想家。1746年、チューリッヒに生まれる。チューリッヒの大学に学び、そこでルソーその他の革新的な啓蒙思想に触れ、政治の改革を求める学生組織「愛国者団」に入る。その後、農業を志し、アンナ・シュルテスと結婚、農業経営のかたわら、貧児・孤児の教育事業に着手する。1781年、教育小説『リーンハルトとゲルトルート』を発表し、絶讃を博す。シュタットでの孤児救済の活動を経て、1800年ブルグドルフ、1804年、イヴェルドンに学園を開く。『メーデの精神と心情』『ゲルトルート教育法』など、多くの著書を刊行する。学園は、多くの国々から参観の人々が集まり、教育実践研究のセンターとなって、ヨーロッパ、アメリカにペスタロッチー運動が広がる。1825年、弟子たちの内紛から、学園を閉鎖してノイホーフに退き、1827年、ブルックにおいて没す。82歳。

## ペスタロッチー墓碑銘

ハインリヒ・ペスタロッチーここに眠る。  
 1746年1月12日チューリッヒに生れ、1827年2月17日ブルックに没す。  
 ノイホーフにおいては貧しき者の救助者。  
 「リーンハルトとゲルトルート」の中では人民に説き教えし人。  
 シュタットにおいては孤児の父。  
 ブルグドルフとミュンヘンブーフゼーにおいては国民学校の創設者。  
 イヴェルドンにおいては人類の教育者。  
 人間！ 基督者！ 市民！  
 すべてを他人のためにし、  
 己には何物も。  
 恵みあれ彼が名に！

## ペスタロッチーとペスタロッチー教育賞

広島大学大学院教育学研究科は、財団法人広島地域社会研究センターならびに中国新聞社の後援を受け、今日、我が国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践をおこなっている個人あるいは団体を顕彰するため、先のペスタロッチー賞の精神を継承し、ここにペスタロッチー教育賞を創設した。その趣意として、以下のことが挙げられる。

教育の荒廃が叫ばれる中、優れた教育を地道に実践し、「真教育」の原点を示している実践家を顕彰にすることは、これらの人々を勇気づけると共に、その活動を社会に広め、活性化させるために、極めて重要なことである。この賞は、混迷する教育の現実に対して、教育の原点を示し、我が国教育の立ち直りのきっかけにしようとするものである。その象徴としてペスタロッチーの名が称えられよう。ペスタロッチーは民衆教育の父であり、教育の実践家として、子どもへの限らない愛情と慈しみを身をもって示した教育者であった。同時に、多くの困難を克服しておこなわれた教育実践から編み出された教育思想・教育理論は、単に18、19世紀の所産としてではなく、常に「真教育」の象徴となり、今日に至るまで世界の教育を動かし、教育の原点を示すものと考えられている。とりわけ、本学部には、大正10年以來の、ペスタロッチー研究および運動に関する長い伝統があることも忘れてはならない。

ペスタロッチーの実践・思想・理論には、今日の教育荒廃を克服するための方途を示す力があると確信される。ペスタロッチーの精神を教育の原点として捉え、優れた教育を実践している人々を顕彰することは、正に今日の教育にとって「地の塩」となろう。

## &lt;付記&gt;

第1回受賞者 宮城 まり子 ねむの木養護学校校長

第2回受賞者 谷 昌恒 北海道家庭学校校長

第3回受賞者 児玉 三夫 明星学苑理事長、明星大学校、明星小学校長

第4回受賞者 山田 洋次 映画監督

第5回受賞者 NHK名古屋放送局「中学生日記」製作スタッフ

第6回受賞者 本 吉 修 二 学校法人白根開善学校校長  
第7回受賞者 黒 柳 徹 子 ユニセフ親善大使  
第8回受賞者 社会福祉法人 広島新生学園  
第9回受賞者 丸 木 政 臣 和光学園学園長